

香川と香川大学を伝える

～University Radio project～

代表者 中 田 尚 紀 (教育学部学校教育教員養成課程 3 年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、「香大生が香川を伝える」という取り組みである。私たちは平成 25 年度から 4 年間に渡り、ラジオ番組「Art Time Junction」の制作を行ってきた。今年度は香川県内のイベントだけでなく、香大生にも取材の焦点を当て、香川と香川大学の魅力をラジオ番組として発信した。これまで香川の魅力を中心に取材を行ってきたが、香大生にも取材を行うことで、香川大学の魅力を様々な切り口から番組を放送した。その際、香川大学に数多く存在するサークルや他のプロジェクト、学生団体とコラボし、学生の活躍の様子を大学の宣伝を交えて伝えた。FM高松で 2017 年 7 月から 2018 年 3 月にかけて 22 時から 23 時の 60 分番組を毎月第 3 水曜日に放送し、合計で 9 本製作した。

2. 実施期間 (実施日)

平成 29 年 6 月 1 日から 平成 30 年 3 月 31 日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

本プロジェクト事業は、毎月第 3 水曜日の 22 時から 23 時まで FM高松においてラジオ放送を行ったものである。今年度は「香川と香川大学を伝える」をテーマに番組放送を行った。例年通り、香川の各所にメンバー自ら赴いて取材し、香川の魅力を再発見し、発信した。それに加えて、今年度は香川大学の情報やイベント等の宣伝を含めた発信を行うとともに、香川大学や大学外で活躍する学生に焦点を当て、ゲストとして番組に招き、彼らが所属する団体やサークルを紹介した。また、番組作りだけでなく、広島経済大学や立命館大学と交流会を多く行った。毎年恒例となっている広島経済大学訪問の際は、生放送への参加や意見交

なえどこラボの様子



換会などを行い、お互いの番組作りに対する熱意や意見、考えを学ぶことができた。8月に京都で行われた広島経済大学、立命館大学、香川大学の3大学交流会では他大学の学生とチームを組み、厳しい条件のもと、限られた時間で生放送番組を制作するという演習を行い、メンバー各々のスキルアップを図ることができた。それだけでなく、他大学や他県での番組制作や交流会を通して、香川を主観的ではなく、客観的に見ることができ、他県と比較しての香川の魅力を発見することができた。今年度の放送内容は以下のとおりである。

放送日	内容
4月19日	新歓祭特集
5月17日	放送部コラボ 栗林公園取材
6月21日	なえどこコラボ
7月19日	立命館大学交流会特集
8月16日	豊島取材
9月20日	京都3大学交流会レポート 屋島取材
10月18日	WITH CAFÉ 取材
11月15日	ココカラ取材 大学祭レポート
12月20日	直島地域活性化プロジェクト コラボ うどん大会取材
1月17日	金毘羅山取材
2月21日	かわやなぎさわこさんとの コラボ企画
3月21日	4年生卒業スペシャル

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業の実施により、香川県内各地の魅力や文化についての情報を大学生の目線から番組を聴いている方々に対して発信することができた。観光地として有名な栗林公園をはじめ、豊島や屋島などへ実際に取材しに訪れたり、大学内の他のプロジェクト活動を務める代表の方や外部で活躍している団体の方をゲストにお招きしたりすることで幅広い目線から香川を伝えることができた。

また、昨年度に引き続いて広島経済大学の「FMハムスター運営プロジェクト」のメンバーと継続した交流を行うとともに、今年度は立命館大学の坂田先生のゼミ生との交流も行った。他県の大学生に香川県へ来てもらい番組作りを行ったり、他県へ赴いて取材をしたり勉強会に参加したりすることで、大学生ならではのコミュニティFM放送を生かした放送とは何か、考えを深めることができた。

学内に留まらず、地域の団体をはじめ香川県内外を訪れ取材し、他大学との交流や勉強会を行うことで、改めて香川県内の魅力を再発見することができた。学生が主体となって番組をつくることで、大学生の目線から香川大学の情報発信、広報という役割を果たすとともに、香川の魅力をラジオで発信することができた。



広島経済大学訪問の様子

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

本プロジェクトはラジオの収録番組であることも関係して、メンバーでの共同による作業がひとつの番組を制作するに当たって重要となる。具体的には、内容の企画・構成、取材に関する情報収集、アポイントメントや実際のトーク、音声の録音・編集、スケジュール管理などの作業からなっているが、これらの役割を上手に分担しながら自分自身にあてられた仕事に関して責任をもって遂行することが求められる。こういった意識は仕事などの物事に取り組む姿勢として大切であるため、良い体験をしているといえる。

また、プロジェクトで育成された能力は番組作りのみならず普段の生活にも生かされている。相手のことを思いやったコミュニケーション能力やトークスキル、スケジュール管理やアポイントメントの能力は着実に身につけてきているように思われる。

さらに、番組づくりを行うことによって物事をより俯瞰した位置から見られるようになった。いつも同じ位置から物事を捉えるばかりではなく、別の立場に立って考えるとどうなるか普段の生活で立ち止まって考える機会が増えた。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

本プロジェクトの今年度の反省点は主に3つある。まずは、番組の認知度の低さである。様々な活動や内容を放送しているが、実際に香川大学内での認知度はあまりなく、番組だけでなくプロジェクトの存在そのものを知らないという人も多い。今後は SNS やチラシ等の配布を積極的に行い、その存在を広め、認知度が高まるようにしていきたいと考えている。また、これまでは学生とのコラボが多かったが、機会があれば大学運営や広報の方と連携し、より大学広報的な役割を本プロジェクトが果たしていけるようにしていきたいと考えている。次の反省点は仕事の分担ができていないという点である。メンバーが少なく、1, 2年生中心かつ学部がバラバラということもあり、仕事をうまく分担し、連携を取ることが今年度はあまりできなかったように感じた。また、それと同様に3つ目の反省点として見通しを持った計画を立てることができていなかったというのが挙げられる。目先の放送のことばかり考えてしまい、来月や今後の活動のことに考えが回らず、なかなかスムーズな組織の運営ができたとはいえなかった。来年度からは年度初めに通年の計画、3ヶ月先の放送など見通しを持った計画を立て、そのうえでそれぞれが役割を果たせるように職務を分担していこうと考えている。

今年度の活動では多くの場所で多くの発見をする一方で多くの人々と出会い、それによって内容もバラエティ豊かで楽しい放送になったのではないかと考えている。しかし、まだまだ反省点や改善点も多く、「良い番組」と呼ばれるものにはまだまだ届かないと痛感した。来年度は今年度の反省を活かし、「良い番組」作りを行っていくと共に、メンバー各々が社会に出ても役に立つ能力を向上できるような活動も積極的に行い、番組の質だけでなく、メンバーの技量や人間性の向上に努めていきたい。

7. 実施メンバー

代表者	中田 尚紀	(教育学部 2年)		
構成員	木村 一豊	(農学部 2年)	杉野 航洋	(教育学部 1年)
	小川 葵	(経済学部 1年)	須原 沙紀	(経済学部 4年)
	岩木 勝也	(法学部 4年)	宮脇 拓弥	(経済学部 4年)
	古市 かな子	(経済学部 4年)	田村 龍也	(経済学部 4年)
	谷 淳弘	(工学部 4年)	蓮井 宏輔	(工学部 4年)
	加藤 昇	(工学部院 1年)		